

環境報告書 2023

Environmental Report

CONTENTS

- p1 専務理事あいさつ・北大生協の事業概要および環境マネジメント体制
- p2-3 環境保全と環境負荷データ
- p4 2022年度の主な取り組み

専務理事あいさつ



2023年5月24日
北大生協 専務理事
小助川 誠

北大生協は、2005年9月に北海道大学の環境方針が定められたことを受け、同年10月に「北大生協環境方針」を策定し、さまざまな福利厚生事業を対象に、環境への影響の大きいものについて技術的かつ経済的に可能な範囲において、目的・目標を設定してきました。それらに取り組むことによって環境負荷の軽減と汚染の予防を図るとともに、環境マネジメントシステムの見直しと継続的改善を積極的に進めています。そして、この『環境報告書』は、北大生協の環境配慮の取り組みと環境負荷のデータについて、組合員の皆さまに発信するために作成されています。

北大生協は2022年に創立75周年を迎え、この先もこの美しいキャンパスで皆さまの生活を支えていきますよう、自然環境や人間にやさしい持続可能な発展を目指していきます。近年では、SDGsや環境関連の各種法令・目標が国内および国外で設定され、北大生協においても環境マネジメントシステムの見直しが求められています。現在、北大生協では時代に即した活動を進めるため、「北大生協環境方針」の見直しや環境にやさしい製品の導入の検討などに取り組んでいます。

北大生協の事業概要および環境マネジメント体制

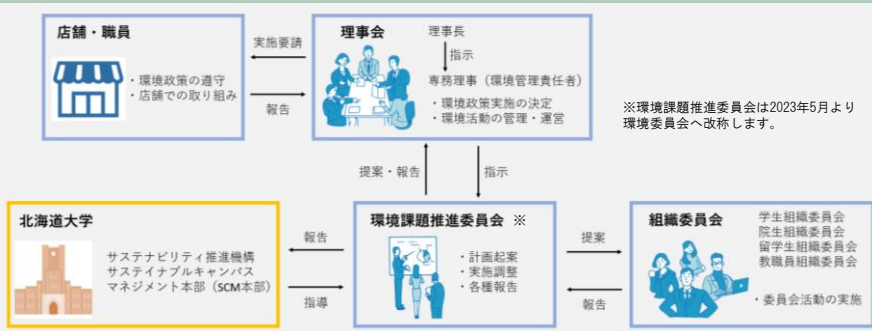
◆北大生協の事業概要

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
組合員数(人)	26,479	26,152	25,636	24,740	25,234
出資金総額(千円)	392,502	392,587	391,086	383,651	393,789
供給高(千円)	4,196,266	4,143,040	2,839,044	2,872,322	2,989,513
経常剰余(千円)	▲21,218	▲33,865	▲223,922	▲38,177	11,918
正規職員数(人)	47	38	35	29	30
定時職員数(人)	221.1	220.8	124.9	115.3	129.0

※定時職員数は年間2,000時間をもって1名と換算しています。

部門	店舗
食堂	北部・中央・クラーク・ポプラ・工学部・農学部・医学部・水産
購買	北部・生協会館・ポプラ・工学部・農学部・医学部・歯学部・薬学部・保健学科・文系SS・理学部SS・水産・外売
書籍	北部・クラーク・外売
サービス	北部トラベル・印刷情報・キャリアサポート・ルームガイド・住居管理・共済組合員センター

◆北大生協の環境マネジメント体制



各店舗や組織委員会に対して環境対策の諸提案を行い、環境活動を実施するために、理事会の指示のもと毎年度、環境課が設置されます。この委員会は、北大生協の環境活動について北海道大学に報告し、指導を受ける窓口の役割も果たしています。

北大生協環境方針 (2005年10月理事会にて策定、2011年委員会・理事会で今後も維持することを確認)

私たち北海道大学生協同組合は、「環境保全は私たちの行う様々な活動の基礎である」との認識にたち、様々な福利厚生事業を対象に、環境への影響の大きいものについて技術的且つ経済的に可能な範囲において、目的・目標を設定します。それらに取り組むことによって環境負荷の軽減と汚染の予防を図り、環境マネジメントシステムの見直しと継続的改善を積極的に進めていきます。

- 北海道大学の環境方針、環境関連の法律、規制、条例及びその他受け入れを決めた事項を遵守します。
- 北海道大学の環境マネジメント実施体制に積極的に参画します。それらの活動に参加する組合員の活動を応援します。
- 生協施設における電気・ガス・水道および紙・包装資材の使用量を抑制するとともに、事業系廃棄物の削減・再資源化に努めます。
- 環境負荷に配慮した商品の開発・改善・普及をすすめます。また「グリーン購入」の取り組みを推進します。
- 学生・院生の環境配慮に関する活動の場をたくさん作り、北大構成員自身による環境活動を広げます。

環境保全と環境負荷データ

エネルギー・マテリアルバランス 〈2022年度:北大生協全体〉

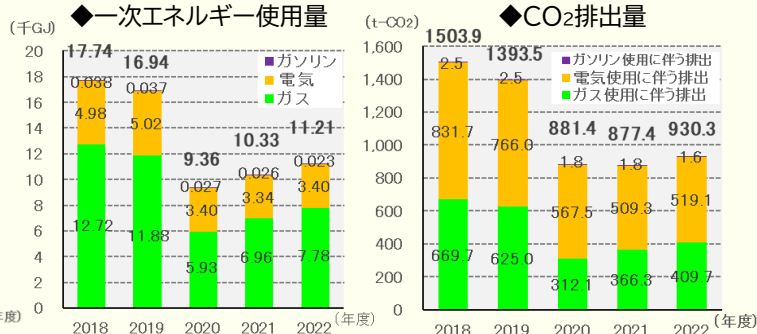
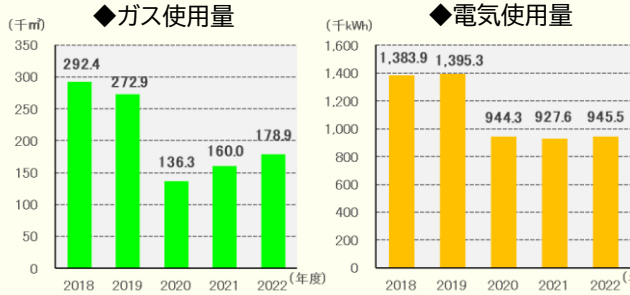
INPUT

一次エネルギー使用量	11,212	GJ
ガス使用量	178.9	千m ³
電気使用量	945.5	千kWh
水道使用量	10.5	千m ³
レジ袋利用枚数(4~11月期)	11,511	枚

OUTPUT

エネルギー使用に伴うCO ₂ 排出量	930.3	t
排水量	11.4	千m ³
廃棄物のうち		
一般廃棄物量	339.4	m ³
産業廃棄物量	13.92	t

エネルギー使用実績



2020年度以降、新型コロナウイルス蔓延による店舗の休業・短縮営業のため、それ以前に比べ、一次エネルギー使用量やそれに伴うCO₂排出量は小さい値となっています。しかし、徐々にウィズ・コロナの生活様式が広がっており、店舗の営業時間も増加し、2022年度は前年度に比べ一次エネルギー使用量は増加しました。特に、食堂の営業時間や利用客数の増加により、ガス使用量は大きく増加し、その結果、CO₂排出量も増加しました。

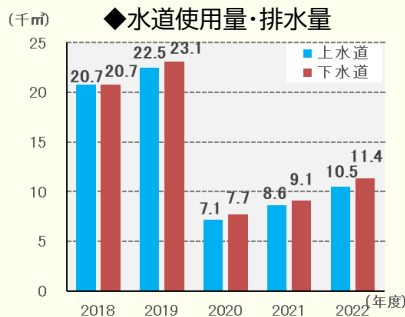
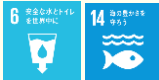
CO₂排出量は以下の方法で算出した。
 ガス：ガス使用量×CO₂排出係数2.29[kg-CO₂/m³] ガソリン：ガソリン使用量×CO₂排出係数2.32[kg-CO₂/L]
 電気：電気使用量×電気事業者の公表するCO₂排出係数(調整後)[t-CO₂/kWh]

◆店舗における節電ポスター等の掲示



職員・店員が省エネルギーを意識できるよう、各店舗に北海道大学SCM本部制作のポスター・ステッカーを掲示しています。

水道使用・排水



◆食堂のグリストラップ



水道使用量や排水量についても、新型コロナウイルス蔓延による店舗の休業・短縮営業のため、以前に比べ小さい値となっています。水道使用量や排水量の値は、調理や洗浄のために多くの水を使用する食堂の営業時間・利用客数に特に影響を受けやすいと考えられます。最近では、食堂の営業時間や利用客数が増加しており、2020年度以降、水道使用量や排水量も増加傾向にあります。

また、食堂では、厨房などの排水に含まれる油脂を捕集・分解するグリストラップが設置されています。グリストラップは週に1回以上清掃を行うほか、排水中の油分の確認などの水質検査を年に1回実施しています。

レジ袋使用量・辞退率



◆各年度のレジ袋利用枚数・辞退率(購買・書籍両部門の合計)

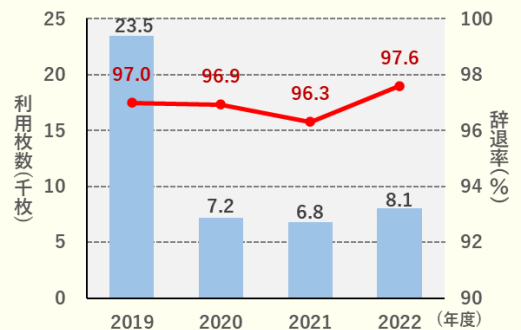
年度	2019	2020	2021	2022
集計期間*1	2019年6月～2020年3月	2020年4月～2021年3月	2021年4月～2022年3月	2022年4月～2022年11月
レジ袋利用枚数(枚)	32,130	14,003	13,401	11,511
辞退率(%)*2	97.2	96.8	96.6	97.6

*1 2019年度は6月からレジ袋の有料化を行ったため、それ以降のレジ袋利用枚数が集計された。
 2022年度はレジのシステム更新により12月以降のデータを得られていない。
 *2 辞退率(%)=(店舗利用者数-レジ袋利用枚数)/レジ袋利用枚数×100

北大生協では、プラスチック資源の節約や循環への社会的な意識の高まりに合わせて2019年6月より各店舗でのレジ袋を有料化しました。それ以降、北大生協全体でのレジ袋辞退率は96~97%台を維持しています。有料化以前では最高で年間91.1万枚のレジ袋が利用されていたため、そのときと比較すると現在の利用枚数は約98%減少し、CO₂換算すると年間54.9t(*3)の削減を実現しています。

◆各年度のレジ袋利用枚数・辞退率(4~11月期)

2019~2022年度のすべての年において、店舗利用者数とレジ袋利用枚数の数値が完全に記録・保存されていた4~11月期のみを抽出し、その期間におけるレジ袋利用枚数と辞退率の経年変化をグラフに示した。



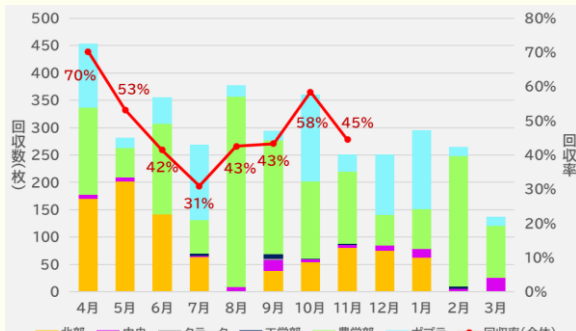
*3 レジ袋1枚あたり、約61g(製造時に30g、焼却時に31g)のCO₂が排出される。[省エネルギーセンターより]



◆リ・リパックと回収場所



◆リ・リパック回収枚数と回収率(2022年度)(*)



北大生協の食堂では2019年度以降、テイクアウトの利用者に対し、リサイクル可能な容器であるリ・リパックにカレーライスや丼メニューを入れて提供しています。そして、2022年2月より使用済みのリ・リパックの回収を本格化し、現在では、使用されるリ・リパックの約4割を回収し、資源循環に貢献しています。

*回収率(%)=リ・リパック回収数/テイクアウト件数×100。レジのシステム変更により、2022年12月以降はテイクアウト件数が記録されず、回収率が算出できない。

割り箸



北大生協では、森林育成に協力し、環境保護を促進するための取り組みの一環として、2002年から国産間伐材使用の「樹恩割り箸」を、2006年7月からは北海道内の下川製箸(株)の「FSC認証元禄箸」を食堂・購買で利用してきました。下川製箸(株)にはこれまで価格を据え置く形で製造・供給に尽力いただきましたが、2022年4月下旬に工場が焼失し事業の中止が決定されました。これを受け、現在は樹恩ネットワークに取引再開をお願いしています。

◆間伐材使用の割り箸



左:樹恩割り箸(樹恩ネットワークホームページより) 右:FSC認証元禄箸(下川製箸(株)ホームページより)

古紙回収



北大生協では、各店舗における事業によって生じた古紙(書類・新聞・雑誌・段ボールなど)や、組合員が店舗に持参した古紙を回収し、業者に委託し、再資源化を図っています。

2022年度の回収量は北大生協全体で33.47tでした。コロナ禍以前は例年、70t以上の古紙が回収されていましたが、近年では書類の電子化や紙資源の節約が進み、回収量が少なくなっています。

◆古紙回収の様子



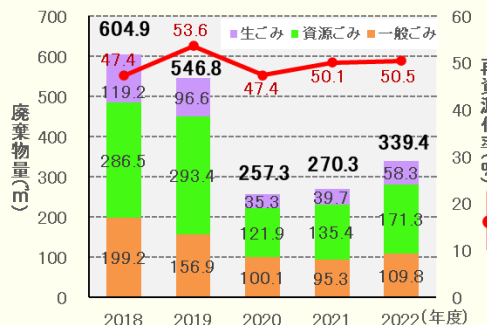
廃棄物



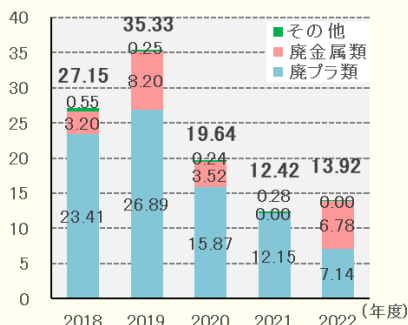
◆北大生協における廃棄物の分類

ごみの内訳	分類
食品残渣	生ごみ
プラスチック容器/包装・発泡スチロール	資源ごみ
紙ごみ(主に紙片など)	資源ごみ
汚れた紙ごみ	一般ごみ
木片(割り箸・へら・楊枝など)	一般ごみ
ゴム・ビニール布・皮革	一般ごみ
紙・新聞・雑誌・段ボール	古紙
ビン・缶・ペットボトル	ビン・缶・ペットボトル
大型プラスチック・プラスチック製品	産業廃棄物(廃プラ類)
金属・金属製品	産業廃棄物(廃金属類)
ガラス・陶磁器・蛍光灯	産業廃棄物(その他)
乾電池	産業廃棄物(その他)
草・枯れ葉・枝	産業廃棄物(その他)
家電・家具	産業廃棄物(その他)

◆一般廃棄物の排出量



◆産業廃棄物の排出量



廃棄物は、上記表のように大きく一般廃棄物と産業廃棄物に分類されます。一般廃棄物のうち、資源ごみは高温・高圧で固化し固形燃料にすることで再資源化されています。2022年度は一般廃棄物に占める資源ごみの重量の割合(再資源化率)は50.5%であり、一般廃棄物のうちおよそ半分以上が再資源化されました。また、食堂の営業時間や利用客数の増加により、生ごみ(主に食品残渣)の重量も増加傾向にあります。

組合員の皆さまへ

引き続き北大生協の環境に関する取り組みへのご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

○レジ袋使用量の削減

購買や書籍でお買い物の際は、マイバッグをご持参いただくなど、レジ袋の節約へご協力ください。

○使用済みリ・リパックの回収

食堂でテイクアウトをご利用の際は、使用済みのリ・リパックはフィルムを剥がして食堂内の回収場所へお持ちください。

○資源回収・リサイクル

北大生協では、資源回収を行っています。ご家庭でご不用のものがありましたら、ぜひお持ちください。

- ・不要自転車 …北大生協会館1階サービスカウンター
- ・牛乳パック・古新聞 …北部店2階



◆リ・リパック回収用ポスター



◆レジ袋有料化告知ポスター

2022年度の主な取り組み

北大生協創立75周年記念イベントの開催



北大生協は、2022年度に創立75周年を迎えました。それを記念し、各店舗でのイベントや記念講演会の開催、記念パンフレットの発行などを行いました。記念パンフレットには、北大生協の環境に関する取り組みや環境課題推進委員会の活動を紹介する記事も掲載されています。

フードバンク団体への支援



フードバンク活動を行っている学生ボランティア団体「Hokudai Food Bank」からの協力要請を受け、北大生協で発生するフードロス削減にもつながるため、廃棄予定の食品の提供を開始しました。購買で売れ残ったおにぎりやパンなどを市内の児童会館へ無償で提供しています。

地産地消の取り組み



7月に大学で開催された「北海道大学×STV SDGsデー」には、北大の農場で飼育された短角牛のステーキが食堂にて販売されました。さらに、年間を通して、農場で栽培された野菜(枝豆、とうもろこしなど)や果物(りんごやぶどうなど)も定期的に食堂において出食されました。また、北大生協では、米や玉ねぎ、ゴボウ、ジャガイモなど多くの食材が北海道産であり、地産地消の活性化に努めています。



◆SDGsデーに出食された短角牛のステーキ



◆食堂において販売された北大農場産の枝豆

環境課題推進委員会の活動



◎リ・リパック回収に関する取り組み

各食堂に出される使用済みのリ・リパックの回収は学生の委員中心に運営しています。2022年度は、リ・リパックを通じて利用者に環境への関心をもってもらうためにポスターを作成・掲示したり、より楽しく回収に協力してもらうためにリ・リパックを使った投票企画を実施したりしました。



◆リ・リパックによる投票企画



◆リ・リパックに関するポスター

◎セミナーへの参加

レジ袋の有料化やリ・リパック回収の実現など、これまでの委員会の活動をより広く発信するため、CAS-Net JAPAN(サステナブルキャンパス推進協議会)やASCN(アジア・サステナブル・キャンパス・ネットワーク)に参加しました。他大学の団体の発表やさまざまな学生・職員との交流を通じて得た気づきを北大生協の今後の活動に生かせるよう努力していきます。



◆セミナーでの発表



◎「北大生協環境方針」の改訂

「北大生協環境方針」は2005年に初めて制定され、それ以降、北海道大学や社会では種々の法律、計画、制度、方針、目標などの新設・改訂がされましたが、北大生協の環境方針は一度も見直されることがありませんでした。今改めて時代に即した目標を策定し、適正な環境活動を進めるため、新しい環境方針の起草・検討を進めています。

環境報告書2023

発行
北海道大学生協同組合

編集
北大生協理事会
北大生協環境課題推進委員会

発行年月
2023年5月

対象期間
2022年4月～2023年3月

環境報告書2023をご覧くださいありがとうございました。お読みになってご意見・ご感想等ございましたら、下記の連絡先までお送りください。今後のより良い取り組みの実現や次年度以降の環境報告書の制作に向けて、ご協力をお願いいたします。

送付先: seikyou@coop.hokudai.ac.jp

- 住所
〒060-0808 札幌市北区北8条西7丁目1-1
- ホームページ
北大生協環境課題推進委員会
<http://www.hokudai.seikyou.ne.jp/>
学生委員会
https://www.hokudai.seikyou.ne.jp/univcoop/suishin_inikai/
院生委員会
<https://hokudai-coop-gi.com/>
<https://www.hokudai.seikyou.ne.jp/insei/>

- 機関連誌
Letter (学生委員会)
ほんでないかい (院生委員会)
きぼうの虹 (教職員委員会)
- Twitter
北大生協 @HU_COOP_KK
学生委員会 @HU_COOP_GI_CS
院生委員会 @Hokudainsei_coo

- E-mail
seikyou@coop.hokudai.ac.jp
- 公式LINEアカウント



<https://lin.ee/h4bu2Ur>



北大生協ホームページ



北大生協は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。